

第26回横浜みどりアップ計画市民推進会議 会議録	
日 時	平成29年 5 月 22 日 (月) 10時00分から12時00分まで
開 催 場 所	横浜市技能文化会館
出 席 者	進士座長、蔦谷副座長、相川委員、網代委員、東委員、池田委員、岩本委員、加茂委員、長瀬委員、野路委員、若林委員 (五十音順)
欠 席 者	池邊委員、大竹委員、清水委員、望月委員、靱山委員 (五十音順)
開 催 形 態	公開 (傍聴0人)
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 横浜みどりアップ計画 3 か年 (平成 26 年度～平成 28 年度) の進捗状況について 2 市民推進会議 平成 28 年度報告書 (案) について 3 市民推進会議 平成 29 年度の取組について 4 その他
議 事	<p>(事務局) 本日、委員の皆様には、御多忙のところ、また、朝早くからお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>ただいまから、第26回横浜みどりアップ計画市民推進会議を開催させていただきます。</p> <p>最初に、本日の会議の成立について確認します。本会議ですが、横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱第 5 条第 2 項の規定によりまして、半数以上の出席が会議の成立要件となっております。本日、委員定数16名のところ11名御出席いただいておりますので、会議が成立していることを御報告いたします。</p> <p>次に、本会議は、同要綱第 8 条の規定によりまして、公開となっております。会議室内には傍聴席と記者席を設けております。それから、本日の会議録も公開とさせていただきますので、会議録につきましては、御発言者氏名を記載いたしますので、あらかじめ御了承いただきたいと思います。さらに、この会議において写真撮影を行い、ホームページ及び広報紙、こちらに掲載させていただくこともございますので、こちらもあわせて御了解いただければと思います。</p> <p>それから、本日は、委員の改選が行われまして最初の会議ということになりますので、委員の皆様の上に委嘱状を置かせていただきました。任期につきましては、本日から平成31年 3 月31日までの約 2 年間ということをお願いしております。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、本日、御出席いただいております委員の皆様を御紹介いたします。今回、新たに岩本委員が御就任されております。</p> <p>(事務局より委員紹介)</p> <p>本日は委員改選ということでございますので、初めに、この会議の座長の選出をお願いしたいと思います。</p> <p>市民推進会議の設置要綱第 4 条の規定によりまして、座長は委員の互選により定めるということになっております。座長について御推薦はございますでしょうか。</p> <p>(網代委員) 引き続き進士委員にお願い申し上げたいと思います。</p> <p>(事務局) ただいま、進士委員に引き続き座長をとということでお話がご</p>

ございました。皆さん、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

(事務局) ありがとうございます。
それでは、引き続き進士委員に、この会議の座長をお務めいただきたいと思います。
続きまして、座長に、副座長について、御指名いただきたいと思いますが、進士委員、いかがですか。

(進士座長) 私と同様、前副座長の葛谷委員にお願いしたいと思うのですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

(「異議なし」と声あり)

(進士座長) どうぞよろしく願いいたします。

(事務局) では、進士座長からの御指名がありましたので、葛谷委員は副座長として、また2年間どうぞよろしく願いいたします。

では、事務局のメンバーを紹介したいと思います。

(事務局よりメンバーを紹介)

そのほかの関係職員もこの後ろに同席させていただいておりますので、よろしく願いいたします。

では、これ以降の議事の進行につきましては、進士座長にお願いしたいと思います。よろしく願いします。

(進士座長) 今日の議題、お手元の資料にありますように、横浜みどりアップ計画の3か年の進捗状況、それから市民推進会議の28年度の報告書の案、それから29年度の取組ということでございます。
それでは、最初の議題、横浜みどりアップ計画3か年の進捗状況についての御報告をいただきます。

(事務局) **【進捗状況について説明】**

(進士座長) 御説明ありがとうございました。
それでは、ここから御意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(野路委員) 資料1の『平成28年度「横浜みどりアップ計画」や「横浜みどり税」の広報に関する調査』についてですが、平成28年度のほうが若干、みどりアップ計画やみどり税を知っている度合いが減っているように思うのですね。みどり税の認知度については、ワーストワンが私の出身区である青葉区だということですごくびっくりしました。この間、JAの会議がありましたときに、私どもの支店で、みどりアップ計画のお金はこういうことに使われているのですよ、といったことを伝えたのですが、知らない方がJA管内でも大勢います。そこで、「みどりアップ計画で助成いただいたいろいろなものにシールを貼って普及啓発しています。」と話したら、「野路さんの話を聞いて、初めてあのシールが貼ってある意味がわかりました」という方がいました。だから、浸透するって、すごく難しいなって思いました。せつ

	<p>かく市民の皆さんにみどり税をいただいているので、もう少し認知度を上げていけるよう広報は力を入れていただきたい取組の1つだと思っております。</p>
(進士座長)	野路さんが、これからもっと頑張る。
(東委員)	私も、資料1を見て不思議に思ったのですが、どうして青葉区の認知度が一番低いのでしょうか。活動している人は、加茂さんを始めとして、大勢いるのに、何か理由はあるのでしょうか。
(野路委員)	若い方があまり知らないのです。
(東委員)	このアンケート調査ですが、一番認知度を上げるのは広報よこはまなどの広報紙だという結果ですが、広報よこはまでみどりアップ計画を紹介するのは、年に何回ですか。
(事務局)	全市共通でやるのは年に1回です。広報よこはまは、全市共通の部分と各区の部分がありますので、毎月、何かしらの形でどこかの区に取り上げていただいています。
(東委員)	<p>広報よこはまの全市部分への掲載は年に1回なので、効果はあるのですが、継続的にはお知らせできていない。広報部会としては、せっかくみどりアップQという広報誌をつくっているので、それをもっと活用する方法を考えてほしいなと思っております。</p> <p>ちなみに、みどりアップQは、市内で何部配られているのでしょうか。</p>
(事務局)	2万部ほどです。
(東委員)	<p>横浜市民370万人分の2万部では人口の1%分にも満たない。</p> <p>例えばですが、青葉区が今、一番認知度が低いということなので、広報重点ポイントみたいところを決めて、試験的に配布部数を増やしてみたらどうでしょうか。例えば町内会さんに配布してもらおうとか、重点的に部数を増やすとか、いろいろなことを考えていただけないかなと思った次第です。その結果、認知度が上がればいいなと思いますし、さらに広報誌による広報は効果がありますということが証明できるのかなと思ったのですが、いかがでしょうか。</p>
(事務局)	<p>認知度調査の結果も踏まえて、メリハリをつけてやっていかなければいけないと思いますので、今、東委員がおっしゃったような部分を含めて検討していけたらと思います。</p> <p>先ほど野路委員が、いろんなところでPRをしていただいているということでお話いただきました。今日、御欠席ですけれども、清水委員が活動されている長屋門公園に毎年、市内の半分ぐらいの小学校の子供さんがいらっしゃいます。そこで広報部会で作っていただいた、みどりアップQをみんなに配って、みどりアップのことをお話ししていただいているのです。子供たちからそういう話を大人へ伝えていただくことで、だんだんと、みどりアップについて知っている人が広がっていています。そういう伝わり方が、少し広がりつつあるのかなということは思っています。</p>

(東委員) そうですね。学校などに配布いただくこともとても良いと思うので、是非お願いします。

(網代委員) 最初に進士座長からお話いただいた、全国都市緑化フェアの里山ガーデンに内覧会も含めて4回ほど行きました。大変すばらしいところでございます。

先日、孫や息子たちも連れて家族で参りましたときには、大変いい天気で、各花壇等もすばらしいのですが、自由に入って遊べる芝生の広場では子供さんが転がったり走ったりゲームをしたり、思いっきり遊んでおられる姿を見まして、緑というのはすばらしいなど印象を受けました。

ちょっと残念に思っておりますのは、小学校にお願いして、動物のプレートのプランターに絵を描いていただき、小学校ごとに並べて展示するという取組です。このことは子供に大きな夢と、あそこを訪ねたときの喜びが2倍も3倍もなるんじゃないかなと思っておりますのですが、どのような方法で、依頼をなされたのか、偏りがあるということが少し残念だなと思っております。

みなとガーデンも何回となくまわらせていただいて、各都市が出展している緑や花壇等もあり、すばらしいと思いました。

28年度までの取組を見て、いかにしてこの緑の取組を広げていくかというときに、全市的な取組に加えて、やはり各地区での取組ということに、力を入れていく必要があるのではないかなと思います。区民の皆さんの身近なところで成果というものが、なかなか知れ渡ってない。それをきめ細かに広報していただいたり、そこを活用していただいたりすれば、皆さんに、この取組のすばらしさを知っていただくことができるのではないかなと思うのです。

それから、もう一点申し上げさせていただくと、学校や幼稚園における緑の創出について、先ほど御紹介いただきましたけれども、どのように、そういうことをやっていただく箇所等を決めているのか、気になります。学校のみならず、学校を取り巻く地域の方々にもお話しいただいて、学校と地域とともに、この学校には、この部分が見えるのではないかなということを考えていかないといけないと思います。管理が大変だからという学校側の意向もあるように聞いておりますけれども、それだけではなくて、そこに緑を設けることによって、どれだけそのことが子供さんにとってすばらしいことなのかということは、私たちが一緒に考え、そして管理も関わってまいりたいと思っております。

以上でございます。

(池田委員) みどりアップ計画の3か年の進捗状況の、28年度の実績の19番の民有地における緑化は、なかなか難しく、目標の半分以下、3分の1ということです。

先ほど広報の話がありましたが、知られていないから利用できてないという部分もあるのではないかなと思います。もっと皆さんが知ることができれば、この制度を使っていただける可能性もあると思いますので、こちらの広報を頑張っていただきたい。それから、助成の基準が厳し過ぎて利用できないということだったら、その見直しなどについても考えていただけないかなと思いました。

公共施設・公有地の創出・管理、いきいきとした街路樹づくりについては、何本植えました、何か所植えましたというのはわかるのですが、その管理が「推進」という目標で、具体的に

見えていないのですね。やっていますよと説明していましたが、やっていないかもしれないとしか市民には見えない。確実にみどり税を使ってやっているのだと、ここはやったのだというようなのはっきりわかるような形をどうかつくっていただきたいと思います。

あと、私も何回も行っている緑化フェアについて、山下公園・グランモール・日本大通り・横浜公園などが、すごくきれいで良いのですが、せっかくの良い状態が、緑化フェアの開催期間である6月4日が過ぎたら全て終わりということではなく、このまま継続するというのもなかなか大変でしょうけれども、何とか維持してほしい。

先日、高島屋で横浜ばら会のバラ展を開催してまして、その方々と少し話したのですが、「本当に横浜のバラは見事だ。ただ、市はこれからの管理をどうするのだろうか」とおっしゃっていました。確かにバラは、皆さんご存じのように、病害虫がすごいんですね。だから、消毒をどういうふうにするのかは気になります。

たしか横浜市は今、公園でチャドクガなどの害虫が出てても薬剤散布はしなかったと思うのですが、バラの場合は、それをしないと、すぐに傷んでしまいますし、葉も落ちてしまうし、害虫も沢山ついてしまう。バラを維持しようとする、立入禁止にして農薬を散布することや、高度な管理が必要だということも言われるでしょう。そういう形をとらない管理もあるみたいなので、そういうことも模索しながら、きちんと維持してほしい。きれいな山下公園、港の見える丘公園で、「横浜のバラはすごいね、はまみらいの香りはすごいね」と、せっかくみんなに楽しんでいただいたのだけど、来年行ってみたら、「えっ、どこに行っちゃったの」と言われたいようにやっていただきたいと思います。お願いいたします。

(長瀬委員) 先ほどの緑化フェアのお話に関連して、どういうふうに継続していくのかということも、皆さんから出ているのですが、何か残していけるような方法があったらいいなと思いついて聞いていました。

少し話が変わりますが、森の中の法面の管理で、生物多様性に配慮してという記載があります。私の家の近くでも2か所ぐらい手が入ったりして、そこは、コンクリートに種と土をまぜて固めたりという感じで整備されていて、現在は植物が出てきているのですが、どんな植物の種類を選んでやってらっしゃるのかなというのを、聞いてみたいと思いました。

(加茂委員) 先ほどから出ています青葉区の認知度が低いということが大変気になっております。青葉区のほかの市民の意識調査を行うと、青葉区の魅力として、緑が豊かな地域ということを挙げる人はすごく多いです。緑が多いのでこの町に住むことにした、これからも住み続けたい、とおっしゃっていて、それがなぜ認知度につながらないのかというのが、区民としての課題です。それについて区役所と相談したり、何かしたりしていきたいと思っております。

(岩本委員) 私も、里山ガーデンのそばに住んでおまして、家族と何度もみなとガーデンや里山ガーデンへ行きました。四、五日前なのですが、幼稚園のバスが30台ぐらいゾーラシアの駐車場にありまして、小さいお子さんたちが大勢来て、皆さん大変賑やかに楽しんでいました。子供さんたちの、お花がきれいとか、

そういった感覚が、また大きくなっても残るのではないかと思います、私は楽しみにしております。また、私の周囲の人たちからも、里山ガーデンがすごくきれいなので何回も行ったということを知っており、私の自治会の役員さんの中には、毎日里山ガーデンへ行っている方もいると聞いています。この緑化フェアは大変な予算がかかっていますが、その相乗効果ではないですけど、バスや周りの交通機関の効果もいっぱいあると思います。

ですので、先ほど池田委員からもありましたように、緑化フェアでつくったものをそのまま全部残すということは大変なことだと思いますが、できるだけ残していただきたいことをお願いしたいと思います。

また、三保市民の森のほうにも、幼稚園の園児の方が月に1回は来られます。また、ご夫婦の方で、よくお会いして挨拶するのですが、どちらからですかと言うと、青葉区からということで、1週間に1回は必ず来ておられるということでした。森に入る人も大分多くなってきております。

緑区役所の周りも、すごくきれいに花が植えてありまして、行政の皆さんの力の入れようがすごいなと感じています。身近な区役所等の広報も大分効果があるのではないかなと私は感じておりますので、東委員からお話がありましたように、広報については今後ともよろしくお願いしたいと思います。

(進士座長) はい、ありがとうございます。

若林委員、どうですかね、経済界は。緑化フェア効果をどう考えていますか。

(若林委員) 緑化フェアに対する評判はいいと思います。認知度自体も、今年の緑化フェアをやったことによって、緑化フェアの中でも、みどりアップについてPRされていると聞いていますので、今年調査して、来年は多少アップするのではないかと期待しています。

また、ほかの委員からも意見が出ましたが、一過性のイベントではなく、残せるものはレガシーとして残して、今後のみどりアップ計画や、あるいは、まちづくりの参考にしていただければと思います。できれば、2026年の国際園芸博の誘致も考えているわけですから、その過程の中で、こういうみどりアップの認知度を向上させるような仕組みづくりみたいなものを考えていただければと思います。

あと、個人的には、保土ヶ谷区で、大分高齢化も進んで人口減少が始まっていますので、空き地問題や空きスペースの問題がかなり出てきて、その再生をどうするかというのが大きな課題だと思います。そうすると、今後、このみどりアップ計画のようなものが、まちづくりとうまく連携して動いていくという視点も重要になってくるのではないかと考えています。

(相川委員) 緑地保全制度の指定の拡大についてですが、私は泉区で天王森泉公園のボランティアもやらせていただいているので、緑を維持管理していくには公園のボランティアの手がかなりかかると感じているので、樹林地が指定された後、どういうふうに維持管理していくのかということも、もう少し今後の課題としてあるのではないかと感じています。

(進士座長) ほかは、いかがですか。よろしいですか。
では、最後に葛谷副座長どうぞ。

(蔦谷副座長) では、1つだけ。副座長の立場としてということになるのかと思いますが、先ほどの野路さんのお話に関連して、市民推進会議の場に農協の関係者に出席してほしいという思いが大変強くあります。今回の会議も残念ながら御出席いただけなかったということで、多分お忙しいのだらうと思いますが、代理出席というのはできるのですかね。忙しければ、代わりの方に出ていただき、みどりアップでやっていることを農協の役員や組合に広めていっていただきたいと思っています。

欲を言えば、多分区ごとに支所があると思うのですが、支所会議みたいなこともやっているのではないかと思うので、そういう一部を借りて、みどりアップとは何かとか、今こんな形で支援をやっていると伝えてはどうでしょうか。それと農協の活動とどういうふうにマッチングさせていくのかとか、そういう説明や議論をする場も一緒につくっていったらいいのではないのかなと思います。これは商工会議所も同じようなことが考えられるのかなと思いますが、法人や組織の代表で御参加いただいておりますので、そういった方々の役割をうまくつないでいただけるように、課長や部長から農協に働きかけるなど、少し工夫していただくよう、是非お願いしたいと思っています。

(進士座長) そうですね、それは是非。

このみどりアップ計画の3か年の進捗状況は、ウェブ上に掲載するのでしょうか。農協などの関係団体と調整して、団体の会員に自動的にお知らせなどが流れるようなこともやれるといいかもしれませんね。

(網代委員) 里山ガーデンではバリアフリーが徹底されておりまして、車椅子でお楽しみいただいている方々を多く見かけました。これは大変いい取組だと思います。そして、そのことをPRの中にも含めていただけると、もっといいのかなと。もう一つ、今、相川さんもおっしゃっていましたが、ボランティアの方が、お花を植え替えたり、花がしぼんだ後の花がらを取ったりする活動をし、大変努力されています。

里山ガーデンに行きますと、協賛してくださった企業等のお名前は大きく表示されているのですが、ボランティアの方々に関する表示はありません。ボランティアとして、開催中関わってくださる方々はこういう方々なのですよという表示もしていただければ、関わっていただく方々にとって、よりやりがいがあるののかなと、そんな思いがありました。

それから、今回のこの全国都市緑化フェアにおいて、各区でさまざまな取組がされました。私ども瀬谷区では、各地にある公園でもお花を植えたことや、御家庭で管理されているお庭を皆さんに公開したことなどの取組があり、各地に広がりがあったなと喜んでおります。

(進士座長) 大変大事なことですね。ボランティアの方をちゃんと表示するというのは、いいかもしれないですね。

緑化フェアと、このみどりアップ計画は、行政の制度では本当はちょっと違うのです。このみどりアップ計画の延長線上に大きなイベントとして緑化フェアがあって、そこで、この活動も含めてみどりアップ計画の事業全部を、市民にはもちろん、全国にも発信しようという、そういう狙いも持って行政は取り組んできたわけですね。

- (事務局) はい。それでは、全国都市緑化フェアの関係から説明させていただきます。
- 里山ガーデンを会場とした意義の1つに、みどりアップの成果を多くの方に見てもらおうというのが基本的なテーマでございました。あそこは公園の予定地なので公園という手法を使っていますけれども、みどりアップでは多くの樹林地を保全しています。そういった保全した樹林地の中に、より多くの方が来やすいような、関心を持ってもらえるような、そういった意味も込めて内容が検討されています。
- 先ほどありました、子供たちがこの森で遊ぶようなグランピングや、ジップラインという、森を使ったアスレチックのようなものを取り入れました。そういった部分については、職員が、より市民に積極的に森にかかわって楽しんでもらうのは何がいいのか考えて入れたのです。
- それから、もう一つの意義に里山があります。横浜の里山は、春はすごくきれいで、山桜がございます。そこに桜を少し加えて、春のきれいな里山を見せたいというようなお話で会場とさせていただきます。
- また、これは公園の事業でございましたので、先ほどありましたようにバリアフリーについても、きちっとやってきたところです。
- 里山については、今後は、この整備したものを生かして残していきたいと思いますが、先ほどありましたジップラインなどについては仮設ですので、終了後は撤去する予定になっています。ただ、今後も残してほしいというご要望が出てきていますので、対応について検討しているところです。
- それから、レガシーの話が出ましたので少し御紹介しますと、里山ガーデン、また、みなとガーデンで、桜のコンテナを230基ほど使っています。桜のコンテナは、コンテナを持ってきて、プランターに植木を入れて花を見せて、花が終わると撤去するという形になりますが、その桜については、今後は公園に持っていき、根岸森林公園やこども自然公園のような桜の名所の復活や、新たな花の名所づくりに活用していこうと考えております。全市に花の名所を広げて、楽しめるよう広げていきたいと思っています。
- また、ソフト面でのレガシーについては、球根をばらまく手法の花壇をみなとガーデンでつくりました。その花壇をつくるイベントには、公園の愛護会の方もたくさん参加していただきました。横浜には、公園愛護会が全市2,700の公園のうちの約9割ございますので、これからは、そういった愛護会の方たちにも、フェアでつくった球根のばらまきの手法の花壇を少し御支援させてもらい、地域にそういった花を楽しんで、多くの方が集まるような活動として広げていけたらなと思っています。
- (事務局) 先ほど蔦谷委員から委員の代理のお話でしたが、運営要綱では、委員の代理は認めないとしていますので、こちらは、なるべく出席いただけるように働きかけや日程調整をしていきたいと思っています。
- (事務局) 緑化関係について回答します。網代委員から、御発言いただいた、子供を育む空間での緑の創出の話ですが、まず、公立の小・中学校につきましては、教育委員会を窓口にさせていただきます。こういった制度があることを周知させていただいています。また、公立の保育園につきましては、区役所のこども家庭支援課に案内を出し、そちらで選んでいただいています。

民間の保育園、幼稚園、あるいは小・中学校については、助成制度をダイレクトメールでご案内させていただいています。

池田委員からいただきました民有地緑化助成のお話ですが、数字にもありますように、目標がちょっと達成できていないという状況がございます。やはり制度があることを知っていただくことが一番大事で、PR活動をかなり積極的にやらせていただいています。先ほど、広報よこはまが一番効果があるということですので、広報よこはまを通じたPRですとか、あるいは新築物件の件数が落ちているところもありましたので、住宅展示場等や、新築時の窓口である建築局にもPRのためのパンフレットを配布させていただいたりしまして、28年度は、若干ではあります件数が伸びたということにはなっています。

それから、ばらの会のお話をいただいたのですが、今回、特にフェアに関連した形で、みどりアップ計画の成果を市民の皆様にもお伝えしていくという目的もあり、山下公園や港の見える丘公園のバラ園の再整備を行っています。それにつきまして、全国都市緑化フェアの統括アドバイザーである白砂先生からもアドバイスなどをいただき、整備当初、植えるバラの品種について、なるべく耐病性のある病虫害になりにくいものを中心に植えていったということもあり、極力農薬を使わない管理ができるように配慮しています。

公園には直営の職員もいるのですが、今回バラの充実を図ってきたこともあって、十分な作業ができないため、部分的に委託での管理も行っています。質の高い管理のためには、継続した管理が非常に大事だろうということもあり、提案型のプロポーザル方式で受託業者を選び3年間継続で維持管理ができるような仕組みでやっています。また、その委託の中でアドバイザーとして、バラの専門家である横浜イングリッシュガーデンの職員の方からアドバイスをいただきながら管理しています。そういう体制を整えてバラ園を維持していきます。

もう一つ、生物多様性に配慮したのり面の防災性の向上についてですが、のり面の整備にあたり、粘土で押さえて、そこに植物の種子がまざった土の吹付を行って、のり面の植生の回復を図っていくということを考えています。早期に緑化をしまわないと、土が流れてしまうという問題もありますので、一部外来の品種も使っているのですが、基本的には在来の種子の種をまぜて括り付けていくという方法でやっています。

(進士座長) 昔はのり面緑化を外来の植物を使ってやっていたけれど、みどりアップの事業ではそうじゃないように努力しているという話です。

ここで考えておきたいのは、広報をやるというのは、どういうことかということ。広報部会の人に関心だけではないのですね。それから、青葉区の方だけでもないです。こういう調査をやると、結果が数字で出るものだから、数字が低いとだめみたいにとる。あるいは、4割ちょっとというのが、本当は100%でなくてはいけないと思ってしまう。僕は、これは錯覚だと思っています。市民は、みどりアップのために生きているわけじゃない。ここにおられる人は、みどりアップの委員だから、こうやって深く関心を持っているのであって、普通の人が緑、緑、緑なんて、お題目みたいに唱えてはいないのです。だから、ここを勘違いしてはいけない。数字がいつでも100でなくてはいけないというのは、日本のマスコミも含めて、みんなわかってない。社会というのは、そういうものではない。みんな、それぞれ関心事があるわけ。

(東委員) 4割は結構高いと思う。

(進士座長) わたしも高いと思う。こうやって少しずつ森から町へと広がっていきようになるわけ。これは長い運動なのですよ。だから、あまり数字に惑わされないようにしてほしいというのが1つ。それから、もう一つ、今回の緑化フェアは、横浜市では初めての開催で、横浜のまちづくり、アーバンデザインの歴史は大変よくアピールされているのだけど、緑の努力はあまりアピールされてない。それを振り返り、緑化フェアでアピールしようと、公園の150年史という冊子を何十人ものスタッフが原稿を書いてつくった。それをぜひ広報部会の委員は読んでほしい。

例えば今回のみどりアップQは、これは何となく農地っぽいというか、農に関連した取組について、連続して取り上げられているでしょう。

(東委員) 森に関しても取り上げています。

(進士座長) はい、森と農についてだね。だから、都市じゃないのだよ。先ほどの話のようにバラ園となると、池田委員のように、バラの管理など、すぐ気になってしまう。僕らの世代の常識なの。だけど、今回は白砂さんに頼んで、農薬を使わないでいい品種や、花全体を多年草化して、毎年植え替えなくてもいいように持続性を考えるべきだと思い、そういう花壇になった。

みんな、過去の経験で生きているけれど、その延長で時代がどう変わるかも見ないといけない。それで150年の歩みをやりました。それを踏まえて広報をぜひお願いしたいというのが1つと。

もう一つは、今回の見直しは、3か年の総括なのだけども、間違いなく時代が変わってきたと思います。全国的に、農業政策としては農地を扱っているところはありますよ。だけど、都市政策として農地を守ったり、水田まで維持しようとしたりするというのはほとんどないのですよ。それを横浜市はやっているのですよ。つまり、横浜市政というのは、時代の変化に沿って、150年間、それぞれの必要性を見ては先取りしてきているということは間違いないですね。

そのように歴史的に物を見ないと、今だけの数字で、だめだ、だめだと言っていてはだめだよ。むしろ、将来のために何が必要か。若林委員や、副座長も言いましたけど、ぜひ商業系の商工会などが全面的に乗っていただきたい。今回の緑化フェアは間違いなく、地域経済に寄与しているはずですね。それと同時に、まちが元気になるという意味で、まちづくりそのものなのです。緑づくりは、まちづくりを目指してやってきているのですよ。それを、経済界の人は、まちづくりはハードなMM（みなとみらい）みたいなものをつくることだけがまちづくりだと錯覚しておられる。環境全体がいいからこそ、まちの評価、ブランドが上がるのであって、そういったトータルなものを横浜市は目指している。「公園とみどり横浜の150年」の冊子を読んでもいただければそれを感じられると思います。ぜひ、そういう歴史的に物を見て、大きく、大きな流れがあるということを理解して議論してほしいです。

さて、次の課題ですね。これから将来的な話になりますが、これまで緑は量を確保することを目標としてやってきたのです。だからすぐできちゃう。何百ヘクタールになったという、量的目標を掲げてきました。でも、そろそろ、今の質の話とか

教育への影響とかを考えていかなければいけない。里山ガーデンに子供たちがバスで何十台来るといのは大変なこと。私は、せつかく広報部会で作ってくれた広報誌を使って、重点的に広報していてもいいと思う。

全部共通で横浜市全域を対象にやっているのでは、効果は低いですね。自分との関係が薄く感じるものですよ。それが、もし重点的に青葉区をやるなら、例えばですけど、青葉区は緑に関心が高い人がこんなに多い区で、野路委員や加茂委員がいるのに、どうして認知度が低いのだろうというテーマにしながら、一方で、子供たちはこんなに感動しているよという話をあわせると、そこで重点的にカバーできますね。

今回の緑化フェアは各区でやったことも、すばらしい、いいアイデアだったと思う。この取組は、全市民の生活を大きく変えて、新しいライフスタイルをつくり上げたのだから、十分自信持っていていいと思っている。次は質の話にどう転換するか。若林さんが言われるように、やっぱり緑屋は緑だけやっているとしかたえられていないのです。横浜では、緑が農にも広がった。そして、緑化フェアで緑を都市の問題にもしている。だけど、それは、その分野ごとに考えているのではないのです。緑は、市民生活全体の質を上げているし、教育の質も上げている。そして、市民がアクティブに働けば、みんな元気になって、その元気が横浜の、例えば保険料が下がってくことに影響するかもしれない。病院に通院する人が減っていくかもしれない。だから、データを見るときに、そういうふうに見えないと。

民有地の緑化助成の件数が少ないって言うていたでしょう。池田委員のアイデアもあったでしょう。そういう工夫もすればいい。恐らく、助成金なんかもらわないで緑化や、屋上緑化をやっているのは、沢山増えているのだと思う。そういう数字は、算出していないでしょう。だって、市に届け出ていないのだから、わからないのは当たり前。助成金の申請はしていないけれど、自分自身のお金だけでやっている分も相当あると僕は思う。今どきの建築計画は、緑化も含めた建築計画を立てているはずですから、民有地緑化の助成件数だけが緑化を頑張っている建物ではないんじゃないかという気はする。ただ、簡単な届け出で済むようにすれば、建物を建てるときに緑化した件数などはぐんと増えると思う。

いろんなことを言いましたが、私は全体としてこのみどりアップ計画は非常にうまく進んできていると思う。ただ、そろそろ次のステップからは量的基準だけを追いかけて何%達成という、そういう時代ではなくなりつつあるはずなので、そこへの目配りが要るのではないかということだけは私の意見として申し上げておきます。

28年度報告書（案）については、問題はないと思いますが、要領よく、ひとつ、御説明ください。

(事務局) 【報告書について説明】

(進士座長) はい、ありがとうございます。

これは既に、それぞれの部会で御検討いただいてできたものですから特に問題はないかと思いますが、特に御発言ございますか。

資料1の広報に関する調査がありましたね。詳細なデータが出てきているのに、本文では全体の認知度として四十何%しか知られていないという点だけがピックアップされているのだけど、細々した項目も、この調査はヒントになりますね。政策を動か

	<p>したり、それから市民グループが何か考えたりするときね。この調査は公表されますか。単に参考資料で出すだけでもいいと思うけれど、1,500もサンプルあるのだし、公表してはどうでしょう。</p>
(事務局)	<p>この詳細を報道発表のような形で今まで発表したことはありませんが、行政の内部では共有されます。</p>
(進士座長)	<p>内部で共有されるのであればいいような気もするけれど、差し支えなかったら公表したらどうでしょう。1,500人も答えていて、回答率が高いよね。答えた人に対して、結果は報告されないのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>無作為抽出、無記名ですので、回答者に対して個別に報告はしません。</p>
(進士座長)	<p>差し支えないのだったら、市役所のホームページのどこかに掲載するのも手かなと思ったけどね。研究してみてください。市のルールがあるでしょうから。</p>
(東委員)	<p>調査に関連してですが、みどりアップ計画を知っている方は、ある程度いるのですが、その税の目的を知っている方は8.3%と、とても低いですね。今後、広報をしながら、みどり税のことも一緒にどう伝えていくのかなというところも課題かなと思います。</p>
(進士座長)	<p>そうですね。これからのまさに課題。望月委員が委員を務めている税制調査会でも議論しているのでしょうかね。</p>
(進士座長)	<p>ただ、今後の課題であるのはあるかもしれないから、それはそれで考えてください。 では、議題2のみどりアップ計画の市民推進会議の報告書については各部会で十分審議していただいた結果ですので、若干今指摘いただいた誤字や、まだ黄色で数字が入っていないところは事務局にお任せいただいて、全体的に何かあったら、座長に預らせていただくということでご了解いただきたいと思います。よろしいでしょうか。</p>
	<p>(「異議なし」と声あり)</p>
(進士委員)	<p>はい、ありがとうございます。 では、最後の議題、市民推進会議の今年度の取組について、事務局から。</p>
(事務局)	<p>【今年度の取組について説明】</p>
(進士委員)	<p>事務局の案にある広報部会は、6月のいつですか。</p>
(事務局)	<p>今、調整中でございます。</p>
(進士委員)	<p>広報・見える化部会の部会長である東委員に提案なのですが、最近のQは、ずっと里山や森、農地を取材しているでしょう。先ほどから議論している緑化フェアが全然見えていない。緑化フェアの予算は別とはいえ、基盤のところではみどりアップに関連するものもあるようなので、全面的に抜いてしまうのは、</p>

僕はやっぱりおかしいと思うのですね。ですから、できればもう少し前倒しして、みどり税やみどりアップ計画は、まち側も相当考えてきたのだというのを少し見せてほしい。

(進士委員) というのは、市では、園芸博覧会の招致をお考えのようだ。なおさら、そちらも意識してやらないといけないなど。生物多様性や環境問題、それから脱温暖化問題、そういうことの重要性については市民の多くの方も大分わかってきたと思うのだけど、やはりまちに緑がある重要性については、まだあまり浸透していない。

なので、私としては、今年度発行する3回全てではなくていいのだけど、今フェアを開催している間に現場に行って、緑化をテーマとして取り上げるかどうか考えてほしい。いかがでしょう。

(東委員) はい。実は次は緑化がテーマで、緑化フェアの山下公園のバラ園が緑化フェア終了後も残るということだったので、それについて市の担当者にインタビューする予定です。

(進士委員) 緑化フェア開催後となると、花の見ごろが終わってしまっている。

これまでのみどりアップQのレイアウトだと、表紙に写真がぼんと来る構成なので、フェア開催後のバラがしおれちゃったような写真はやめてほしい。緑の美しさは、生き生きしているところだからね。

それから、先ほど網代委員や岩本委員が何回も行ったという里山ガーデンだけれど、本当に見事ね。花壇が広がり、背景に森があるというところが良い。里山ガーデンのほうの大花壇はまだ大丈夫でしょう。

(事務局) 大丈夫です。

(進士委員) バラは誰でも良さがわかるのだけど、里山の中の花の見事さを伝えられる場所はなかなかない。是非、次号でもいいから、みどりアップの緑化について、テーマに取り上げてほしい。あとは、部会長と事務局で相談してください。

(進士委員) 市民推進会議の平成28年度報告書案について、今、私のほうから広報部会に関してだけ提案しましたが、それ以外ではよろしいですか。

(「異議なし」と声あり)

(進士委員) それでは、各委員については事務局と連絡をとり合いながら、よろしくお願ひしたいと思います。

(網代委員) お願いがあるのですが、よろしいでしょうか。
先ほどの29年度の計画については、よろしいと思っておりますが、その中の本当に小さな取組になるのかもわかりませんが、次世代を担っていただく子供さんに、やっぱり農地に親しんでいただく、または収穫体験、作業体験、そういうところから喜びを感じていただけるようにしてほしいと思います。
小学校などでは、学校敷地内に6畳ぐらいの広さの田んぼを

つくって、お米づくりの体験をされているところもあります。または、近くの農地を借りて畑作業などをやってらっしゃるところもありますが、これらについて、大いに縦割りを崩して、各小学校等で取組がされるように、お勧め願いたいと思います。

例えば毎日おいしくいただくトマトがどうやってなっているのだろうか、または、どうやってつくってくださっているのだろうかということが、ほとんどわからないままにおられるのではないかなと思います。そこを、学校の野外体験教室のような形で周って見ていただくなど、努力をしていただきたいです。それから各地域で、青少年指導員の方などが農地を借りて田植えの体験などを子供さんにしていただいておりますが、そういうことに対する支援を是非お願いしたいなと思っております。以上です。ありがとうございました。

(野路委員) 今の農体験について。

実は、明日、我が家の田んぼに、保育園や幼稚園の方がいらっしゃいます。昨年、JAからバケツ稲の種をいただいて育てていたそうで、昨年はうまくできたけれど、今年はバケツ稲ではなく、実際に田んぼで育てるので、参考に現場を見に来ます。

また、翌週の土曜日は、60名ぐらいの大学1年生が田んぼに入ります。田んぼに入る大学生のほかにも、そういう活動を眺める現場のギャラリーが集まったり、大学の先輩とか後輩に声をかけてお子様連れで参加したりしているのです。こういう活動もある意味、広報活動にもつながるのかなと思っております。

うちのところの小学校は田植えもやります。それから、土地を借りて収穫体験もやっておりますので、地域ごとに、やはりそういうのを広めていかれたらよろしいかなと思っております。

(進士委員) それでは、最後に事務局からどうぞ。

(事務局) 本日は、活発な御議論を本当にありがとうございました。

横浜市のこの3年間の取組が今後の緑施策に生かされます。陸地での緑の施策が、また河川に通じまして、海にも及ぶのだということも我々意識して取り組んでいます。市民の皆様の満足度がアップするように、これからも取り組んでいきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

今日は本当にありがとうございました。

(進士座長) 皆さん、長い時間ありがとうございました。みどりアップの事業がもう10年近くなり、着々と進んでいて、全国にも模範になっているので、そういうことをぜひ皆さんもお伝えいただいね。

私の希望は、子供たちに、プライドを持ってほしいのですよ。横浜というと、何となく緑の話より、町、都心の関内地区やMMのイメージがどうしても強い。横浜って、すごく大きい町で、流域の問題、水系で考える必要がある。だから横浜市は、緑と水をセットにして、ずっとやっているわけです。他の市は分かれています。そういう意味では環境をトータルに見たり、市民生活との関連で見たり、環境教育のようなものまで見たり、非常に総合的に取り組んできているというのは、私はやっぱり皆さんに自信を持ってアピールしてほしいと願っております。ぜひよろしく願いいたします。

	どうもありがとうございました。
資料 ・ 特記事項	<p>次第 平成28年度市民推進会議報告書（案）</p> <p>資料1 平成28年度「横浜みどりアップ計画」や「横浜みどり税」の広報に関する調査</p> <p>資料2 平成29年度 事業目標</p> <p>資料3 横浜みどりアップ計画市民推進会議 平成29年度の取組（案）</p>